

薬剤師の見た教室



学校薬剤師会会長
磯村 和正 氏

教育随想

二月といえばインフルエンザが猛威をふるう時期である。学校では担任の先生の指導の下、教室内の換気に特に気を配っていることであろう。寒さのため窓を開けたがらない子供たちに、ぜひその必要性を説いてほしい。

室内の空気検査は二酸化炭素濃度をもとにして実施する。これは二酸化炭素が有害だからというわけではない。二酸化炭素濃度が上がることによって多少頭がぼんやりすることはあるが、それ以上に濃度が上がるほど密閉されている状態に問題がある。

かつては、窓を閉めてもどことなく冷たい空気が流れ込む教室であったが、今はサッシで建て付けもしっかりしている。密閉された教室では様々な菌が浮遊し、その状態が長く続けば続くほど感染の確率も高くなる。この密閉された状態を測る目安として二酸化炭素濃度を測っている



平成20年2月1日
2月号

発行・編集
岡崎市教育委員会

今月の紙面

教育随想	1
学校薬剤師会会長 磯村 和正氏	
この人に聞く	2
岡崎工業高校教諭 近藤 克幸氏	
羅針盤	3
男川小学校長 光岡 良平	
ふれあい	3
大門小 安藤 靖子	
新香山中 宮城 夏美	
特集	3
卒園・卒業に向けた 特色ある取組	
お知らせ	3
フォト・ヒストリー	3
読み聞かせ感謝の会 (平成14年)	
この本を	3



夏場は窓を閉め切ることはいらない。しかし、夏の教室を閉め切った場合、気温の上昇によってシツクハウス症候群の原因とされる物質の空气中濃度が上がることがある。コンピュータ教室も含め、意識して換気することが必要である。

また、先生の配慮は教室の明るさについても必要である。室内が明るいことは大切であるが、明るければよいというものではない。室内の明る暗の差を少なくするよう気を付けなくてはならない。晴天の日はカーテンを使い、特に黒板と机上の明暗の

差を少なくしたい。室内灯と黒板灯を点灯して、カーテンによって明暗の調節をするようにすることが大切である。

学校薬剤師として学校を通して子供たちを見ています。近年、過敏症の子供たちが増えてきている。こうした子供をはじめとして、全ての子供が快適に学校生活を送ることができるようになるためには、これまで以上に細かい配慮をしながら環境を整えていくことと、子供たちの環境に対する意識の向上が必要とされている。

(いそむら かずまさ)

ふるさとシリーズ

この人に聞く



強さに憧れて

岡崎工業高校教諭

近藤 克幸 氏

「強くなりたい。負けたくない。その一心で柔道が続けてきました。」

そう語るのは、平成十九年十月二十六、二十七日に行われた第一回講道館柔道「形」国際競技大会の「投の形」の部門で、安城市の大河内さんと組んで、みごと世界一に輝いた近藤克幸さん。

柔道をはじめたのは、小学校四年生のとき、一つ年上の兄と共に近くの道場に入門したのがきっかけだった。「体があまり丈夫でなかった兄に、父が柔道を勧めているのを聞いた途端、「はくもやる」と口にしていまし

た。今から思うと、当時から強さに対する憧れがあったんでしようね。」

持ち前の負けず嫌いとは断続の努力により、近藤さんの柔道はめきめきと上達する。中学二年生のときには、九州大会で優勝。全国ベストエイト。高校三年生のインターハイでは、準決勝で古賀稔彦氏（バルセロナ五輪金メダリスト）に惜しくも敗れるものの、堂々の三位に輝いた。

「練習はいつもきついと思っていました。でも、やればやるほど、強くなる。やりがいがありましたね。」

その後、平成六年の愛知県体成年の部優勝を最後に競技生活を引退した。「形をやり始めたのは、八年前からです。初めはしぶしぶだったのですが、「指導の勉強になるから」と言われて、断ることもできなくて。」

始めて二年後、平成十四年に全国優勝を果たす。これが、今回の世界大会の出場につながった。

世界各国で、形の競技が行われるようになったのは十年ほど前から。競技のポイントばかり重視されるようになり、柔道の正統な形と精神が伝わらないことが心配されたからである。「投の形」は、投げ手と受け手が一組になり、左右合わせて八分間で三十本の技を披露する。技の精度と流れ、そして礼儀が点数化され、順位がつく。今後、近藤・大河内組の形が世界標準となり、正しい柔道が伝



えられていく。

「形をやるようになって、これまで以上にものを考えるようになってきました。受け手との距離が五センチ違うだけで、きれいな投げはできません。どんな出方、どんな投げ、どんな受けがいいのか、技の解釈を一人で徹底的に詰めました。また、多くの方々に演技を見ていただき、教えをいただきました。この挑戦を通して、謙虚ということを学び直せたと思います。」

現在、近藤さんは岡崎工業高校で、体育を教え、柔道部顧問を務めている。

「子供たちには、頑張る過程、努力する過程を大切にしてほしいといつも思っています。頑張ってもできないこともあるかもしれない。むしろ、その方が多いかもしれない。でも、挑戦してほしい。それが、やがて社会の壁を乗り越えていく大きな自信となっていくはずだから。」

世界の頂点に立った近藤さんの言葉は明快で力強かった。

氏名 こんどう かつゆき
生年月日 昭和四十二年八月十一日
住所 岡崎市真福寺町在住



三十八年の歩みから

明川小学校長 光岡 良平

教師生活が終わろうとしている。様々なことがあったが、長い歩みの中で次が思い出されてくる。

◎学級作りは特活・道徳で

担任が決まる四月、最初に取り組んできたのが「学級会」の実践であった。二つ目的があり、何でも話せる雰囲気を作ることと、学級を一つにまとめることであった。まずは、「学級レクリエーション」を議題に自由に話し合いを重ね、その後実施し、全員でやり遂げたという充実感を味わわせることであった。こうした実践を基礎として、以後は学級の様々な問題も取り上げ、学級作りを進めてきた。うれしいことに学級会の実践が教科学習にも良い影響を与えたという実感があった。

道徳は週一時間の「道徳の時間」が大切と考えている。道徳というところ押しつけ的な授業になってしまいうことが多く、多くの友達のことを聞く中で様々な道徳的価値観を知

舞台袖の小さなできごと

大門小 安藤 靖子

「修学旅行はくらの絆」は、修学旅行先で先生がいなくなり、みんなで探すという子供たちの創作劇である。いつも学級を引っ張っていくA男の案が物語の結末に決まり、練習もA男が声をかけて始まるが多かった。みんなに頼られることが多いA男だが、不安や悩みを友達に知られたくないと心のため込んでしまうところがあり、ときどき声をかけて話を聞いていた。

本番直前、舞台袖で出番を待っているA男が、下を向いて「どうしよう、緊張する」と小声でつぶやいていた。いなくなった先生を探しに行こうと友達に呼びかけ、最後の場面で事件の真相を明らかにする大切な役だ。A男がすがるような目になっているのに気づいた私は、ほかの子からA男を隠すように近づいた。そばによってそっと手を取る。目を閉じてパワーを送る。



り込む。「だいじょうぶ。うまくいくよ。A男らしく本領発揮だよ」。細かく震えていた手が止まった。目を開けると、A男に笑顔が戻っていた。舞台へ元氣よく飛び出し、最後まで精いっぱい演じるA男の姿がきらきら輝いていた。劇が終わり、体育館から教室へ向かう途中、笑顔でそつとガッツポーズを見せるA男に、私もそつとガッツポーズを返した。



初めての合唱コンクール

新香山中 富城 夏美

生徒にとっては中学校初めての、私にとっては担任として初めての合唱コンクール。合唱曲は、「Sound My Soul」。私は、張り切って、「もっと声を出して」と何度もみんなを励まし続けた。

そんなある日、A子が新香山ノートにこう書いてきた。「わたしたちはわたしたちなりにがんばっているのにもいつもだめだと言われる。」

A子は、体育大会では応援リーダーを務め、クラスの中でも元氣のよい生徒だ。私は、彼女が合唱コンクールに向けて、みんなを盛り上げてくれることを期待していた。そんな思いを込めて、A子には、個人的に「もっと声が出るよ。しっかり前を向いて歌おう」と声をかけ続けていたのだ。



私は、しまったと思った。振り返ってみると、確かに彼女の歌う表情が心なしか曇っていた。合唱の完成を焦るあまり、彼女やみんなの気持ちを見逃してしまっていたのだ。

それから私は、「声は大きくなってきたよ。でも、指揮者を見て歌うのもっといいよ」など、良いところを認め、声をかけるように努めた。徐々にはあるが、子供たちの歌う表情に輝きが増し、私自身も子供たちと一体感を感じられるようになっていった。

そして文化祭当日。A子の歌う表情に最優秀賞にも勝る達成感を感じることができた。

るところにこの時間の意義があると考える。資料の主人公に託して自分の気持ちが発表できること、いろいろな意見が聞けるということ、「道徳の授業は楽しい」という子供たちの声が開かれることもあった。即効性は期待しないが、心にじわじわと沁み込んでいけばと願ってきた。

特活、道徳に共通するところは「正解はない」ことであり、温かい人間関係を築く上で大切なことと考へ実践してきた。

◎時には気長に待つ

不登校児童に苦しんだこともあった。毎朝迎えに行くが、あきらめて帰ることも多くなり、いろいろ試みてしまった。そんなとき新任時代に読んだ「私の教師論」(斎藤喜博著)に答えを見い出そうとめくってみた。「教師の仕事は、はかない孤独な仕事である。しかし教師が、そういうはかなさを知り、孤独さを知ったとき、そこに新しい力が生まれてくる」。その後は「おはよう。先生待っているからね」と声をかけて帰ることにした。卒業が近づいた二月、登校するように無事帰って行けた。ここで述べたことは浅薄な実践かもしれないが、これから教師の道を歩んでいく若い先生方の一助となれば幸いである。



▲ 6年生を送る会（豊富小）

卒園・卒業に寄せる思いは、送られる子、送る子、そして教師にとって、別離という意味で特別である。

卒業を祝う会は、送る子一人一人の思いを卒業生に伝えるために様々な工夫がされている。小学校低学年の子供が手作りのペンダントを贈ったり、吹奏楽部がさよならコンサートを開いたり、在校生がつまようじでモザイクアートを作ったり、寮の生徒会が独自に企画したお別れ会を開いたりする。送る子の思いを高めるために実行委員を募り、子供たちが運営する学校もある。

卒園・卒業式の取組では、卒園児が育てた綿でコサージュを作ったり式に臨ませる企画をしたり、在校生や卒業生が思い出に残る出来事をステンドグラスで制作して会場の窓を飾ったり、中学校でも在校生と卒業生が対面する式にしたりしている。また、音楽面でも、在校生による雅楽や和太鼓、吹奏楽の演奏をしたり、アイーダ合唱隊を編成したりして、厳粛な中にも温かさのある式を演出している。

一方、巣立つ側が主体の取組では、式当日の朝、卒業生が小集団で各教室を訪問して卒業への思いや喜びを在校生に語り、式の後、卒業生全員が運動場で夢をのせたバルーンを飛ばしたりして、巣立つ思いを高めている学校もある。

卒園・卒業まで一か月余りとなった。今年も、巣立っていく者、見送る者それぞれが、別離に寄せる甘くてせつない思いを胸に、卒園・卒業に向けた活動に気持ちを込めて取り組み、成長する姿を期待したい。



▲ 卒業証書授与式会場の窓を彩るステンドグラス（大樹寺小）

祝う会・お別れの会



▲在校生から感謝状を送られる卒業生（額田中）



▲卒業を祝う会（竜南中）

初めて教習室に入ったとき、先輩方が明るくあいさつしてくださり、とても気持ちよかつた事が印象に残っています。また、いけないことはきちんと「ダメだ」と注意してくださり、そのおかげで私も成長することができました。この伝統をきちんと受け継ぎ、また新しい伝統を作っていけるようがんばってまいります。（二年生）

先輩に伝えたい思い

夏の伝統は、たくさんあって、守らないといけないものはたくさんあると思います。でも、新しくかえていけるものは、かえていくことも大切ですよ。かえていって、さらによくなれば、その伝統を残していけば、もっともったいなくなるはずですよ。だから、これからの夏生活で形だけではなくて、寮生の心の中に残るようなものをつくっていけるように、がんばってください。（三年生）

先輩に伝えたい思い



実行委員を募るプリント

今日の祝う会は最高でした。自分が担当したナレーションの声は、うまく聞こえたかどうか不安だったけど、卒業生のはとんどが泣いているのを見て、気持ちには伝わっているんだと思います。分かってはいたけど、この会が終わると、本当に先輩たちはいなくなってしまいます。今のわたしたちにできることを、せいじつばいやって、先輩たち以上に存在感のある三年生になっていきたいです。（二年生）



▲色をつけたつまようじによるモザイクアート（東海中）

昨年は先輩と協力して夕日に染まる校舎を作りました。今年は部活動に動く先輩の姿を撮くことにしました。つまようじをめずめずさしたり、小さい顔に着色したりするのは大変でした。三年生にはじめて見せたときとても喜んでくれました。苦労した分だけ大変感動しました。（二年生）



▲6年生が訪問してのお別れの会（梅園小）

卒業証書授与式・卒業式



▲雅楽に迎えられて入場（矢作北小）



▲手作りコサージュ（梅園幼）

お知らせ



● 教育最新情報

○ 小学校英語活動の推進

平成十九年度末までに新学習指導要領が発表され、平成二十三年度より施行が予定されている。

これに先立ち中央教育審議会より「教育課程部会におけるこれまでの審議のまとめ」（平成十九年十一月）が発表された。この中で、「小学校段階における外国語活動」について、小学校段階で外国語に触れたり、体験したりする機会の重要性が述べられ、教育の機会均等の確保や中学校との円滑な接続等の観点から小学校高学年において英語を中心とした外国語活動の導入が示されている。

実施にあたっては、小学校英語の準教科書を全国の小学

校で一斉に使用する予定だといふ。

岡崎市では、本年度より教育課程第一部会が中心となって小学校英語活動の実施計画を策定し、平成二十年度からの全校実施に向けて準備を進めている。

(1) 目的

・小学生のもつ柔軟な適応力を生かして、言葉への自覚を促し、幅広い言語に関する能力や国際感覚の基礎を培う。

・中学校の英語教育の前例しでなく、国語や我が国の文化を含めた言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図る。

・教育の機会均等の確保、中学校との連携を踏まえ、全市的に英語活動を導入する

ことにより、岡崎市の子供たちの英語によるコミュニケーション能力を高め、「英語を話せるおかさきっ子」の育成を図る。

(2) 導入方法

平成十九年度に研究校一校とパイロット校を選定し、平成二十年度から高学年で英語活動を実施する。以後、段階的にパイロット校を増やし、平成二十二年度に、その成果を踏まえて全小学校での実施を検討・決定する。

さらに、高学年の英語活動とは別に、平成二十年度より全ての学年において帯の時間を使った英語活動を全小学校ではじめる。

(3) 教材

① テキスト

本年度、岡崎市の子供の実態を調べ、英語活動に使用するテキストを選定した。そして、テキストをもとに全小学校で視聴する英語DVDを独自に作成した。

② DVD

平成二十年度四月より、子供たちが毎日ネイティブ

スピーカーの英語にふれることができるよう、帯の時間を利用して視聴するためのDVDを一年生用から六年生用まで作成した。

具体的には次のように活用していく。

・一・二年生は授業時間とは別に一日八分程度の視聴をする。

・三年生以上は、総合的な学習の時間（三時間）のうち一時間分を毎日八分程度に分けて英語活動として実施する。残りの二時間は従来の総合的な学習の時間とする。

あるいは、総合的な学習の時間をこれまでどおり三時間実施し、一・二年生と同様に授業時間とは別に一日八分程度の視聴をする。

(4) パイロット校における英語活動

平成二十年度はパイロット校を八校指定し英語活動を推進する予定である。パイロット校は以下のような取組を行う。

・五年生か六年生、あるいは五・六年生で総合的な学習の時間を使い、英語ビデオ視聴とは別に、週一時間（年間三十五時間）の英語活動を行う。

・希望に応じて担任等とTTを行う英語指導補助者を配置し、担任、ALT、英語指導補助者によって授業を行う。

・英語指導補助者は、地域の人材等を活用し、TTにより英語活動の指導を行うことを目的として採用する。

・学期に一度程度のパイロット校会議を開催する。



楽しい英会話（大樹寺小）

●表彰

◆デジタルアートグランプリ
2007 中学生・高校生クラス
優秀賞
竜海中一年 吉澤慎太郎

◆全国学校ビオトープコンクール
銅賞
秦梨小
大門小
六美西小

◆第二十五回全国中学生作品
コンクール パソコンの部
優秀賞
竜海中三年 天野 佑基

◆JOCジュニアオリンピック
カップ第二十回全日本小学
生相撲優勝大会
ベスト16
根石小四年 加古 卓也

◆第七回読書感想文感動大賞
感動賞
美合小三年 今泉麟汰郎

◆第六回愛知県小学生長距離
記録会 千五百メートル
男子優勝
井田小六年 西山 令奈

女子優勝
緑丘小六年 田中美希奈

※全国大会出場

◆平成十九年度防火作品展
ポスター六年の部
愛知県知事賞

六美北小 太田まりも
ポスター五年の部
愛知県知事賞

大門小 手嶋 完爾
◆愛知県学校安全優良校表彰
優良校
河台中

◆駅伝カーニバル
男子十二位
美川中
三位
竜海中
女子優勝
竜海中

◆CBC子ども未来キャンペ
ーン作文展
優秀賞
美川中二年 兼子 彰

◆全国少年消防クラブ運営指
導協議会 愛知県支部
優良校
生平小

◆あいち青少年女創意くふう
展2007
日本弁理士会会長奨励賞
大樹寺小三年 秋尾新平

◆愛知県環境推進事業ポスター
市長賞
大樹寺小五年 柴田奈奈

◆全国中学生人権作文コンテ
スト 愛知県大会
入選
岩津中一年 藤井 結佳

◆第五十一回JA共済小中学
生書道コンクール
半紙の部 銅賞
岩津中二年 伊藤 一步

◆エコライフ川柳
入選
夏山小四年 井上 禪登

◆第四十一回県教育研究論文
優秀賞(個人)
北野小教諭 片桐 徹

「問題意識を持ち、進んで調
べ、かわり合いを通して学
びを深める子供の育成」
北野小教諭 小澤 弘

「学ぶ意欲・学ぶ力を育み、
発信力を高める数学指導」
佳作(個人)
矢作西小教諭 林 尚子

「話し合い深めあう国語科の
学習」
◆第五十八回岡崎市民駅伝競走大会
男子の部(三〇・一km)

優勝 甲山 中A
二位 六ツ美北中A
三位 竜海 中A

四位 矢作 中
五位 美川 中A
六位 北 中A

女子の部(一一・七km)
優勝 竜海 中A

二位 六ツ美中A
三位 岩津 中A
四位 城北 中A
五位 北 中A
六位 矢作 北中A

◆県読書感想文コンクール
愛知県知事賞
竜海中三年 村上 まみ

毎日新聞社奨励賞
根石小二年 水野菜々子
※以上二名は全国審査へ
優良賞

岡崎小一年 大竹奈菜実
六南小一年 高橋 早紀
藤川小二年 加納 央都
羽根小二年 中垣友紀子
井田小三年 幡野 美耶
六北小三年 後藤 一心



矢東小四年 江本 望
大樹寺小四年 加納 礼音
広幡小五年 近藤 麻衣
山中小五年 野口 拓海
生平小六年 齋藤 野花
岡崎小六年 三浦 晋作
大樹寺小六年 深津小百合
矢作中一年 鈴木絵梨奈
東海中一年 小栗 奈穂
矢作北中三年 藤本 涼子
南 中三年 柳下 柚子
竜南中三年 高須 文絵

●自動車文庫運営業務休止

十一月にオープンする新図
書館(岡崎市図書館交流プラ
ザ)開館に伴う図書整備の
ため、現在、小学校へ巡回し
ている自動車文庫の運営が一
時休止となる。

○運営休止期間
平成二十年四月一日(火)

より平成二十年十月三十一
日(金)まで

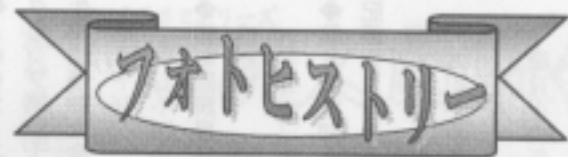
○運営再開予定
平成二十年十一月一日(土)

※再開後は、これまで巡回し
ていなかった小学校三校
を含め、岡崎市内の全て
の小学校に巡回する予定。

読み聞かせ感謝の会 (平成14年)

写真提供：六ッ美西部小学校

平成十四年三月に行われた「読み聞かせ感謝の会」の一場面である。平成十一年六月に立ち上がった読み聞かせボランティア「ママレンジャー」が毎年手作りの劇を披露してくれている。子供たちは、この会や毎週の読み聞かせをとても心待ちにしている。平成九年に六ッ美西部小学校が開校した当時は、市内の各学校でSSV（スクール・サポート・ボランティア）活動に積極的に取り組む学校が増えてきていた。六ッ美西部小学校は、「地域とともに」を掲げてSSV活動の先駆け校として、読み聞かせ・登下校・学校支援・クラブ活動・部活動・防犯ボランティア及びおやじの会を順次立ち上げていった。



岡崎の教育



お世話になった卒業生のために心を込めて音楽を贈る。温かい会を開く。一方で、卒業生が在校生に別れの言葉をじっくりと語る。互いに相手を思う取組だからこそ、そこに大きな感動が生まれる。子供とともに、教師も卒業に向けた取組に全力を注いでいきたい。

白い息を吐いて子供たちが学校へ駆けて来る。いよいよ本格的な寒さの到来である。

「先生、一緒に遊ぼう。」

薄着で外へ飛び出す子供たちは、やはり「風の子」なのだろうか。我々も、重い上着を一枚脱いで寒風の中へ……。

シ オ ス ア

あちこちから「鬼は外。福は内」と豆まきの声が響く節分。最近、その夜に、願いを思い浮かべ、無言で恵方（今年には南南東）を向き、巻寿司をまるかじりする恵方巻という習慣が加わった。ご利益の程は明らかでないが、忙しい中にも年中行事を楽しむ余裕を大切にしたい。

ストーブに灯油を補給する。石油価格高騰の折、教室配布分の灯油も貴重品である。スイッチを入れるか入れないか、生徒との攻防戦が続く。「ちいと勘考すりゃあ（工夫すれば）我慢できるだに。」そう言われた幼いころを思い出す。この冬、「寒さ」も学びの先生になっている。



- *この国のけじめ 藤原正彦 ¥1,249
文藝春秋
- *脳が冴える15の習慣 柴山 節 ¥735
生活人新書
- *「まっ、いいか」と言える子に 淑訪耕一 ¥1,680
育てよう 黎明書房
- *ホームレス中学生 田村 裕 ¥1,365
ワニブックス

*星野流 星野仙一 ¥1,470
世界文化社
本書は、北京五輪の出場権を得た野球日本代表監督の著者が、今までの経験をもとに「勝つための人・時・組織をつかむ発想法77」と題してまとめたものだ。

「判断基準は褒めるか叱るか」「頭だけ動いても人の心は動かない。人は心が動けば頭も動く」「迷った時は必ず前へ」など、具体的な話題をもとにした納得のいく言葉が続く。感謝の心を底流にした著者の一流人としての人柄に触れることもできる。

大雨河小 稲吉 治